

第2回 東京2025デフリンピックに係る大会準備実務者会議  
(議事要旨)

1 開催日時

令和7年11月5日(水曜日)13時00分から14時00分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎33階北塔 特別会議室N1

3 構成員等

○構成員

|                               |       |      |
|-------------------------------|-------|------|
| (一財)全日本ろうあ連盟                  | 河原 雅浩 | 副理事長 |
| 東京都スポーツ推進本部                   | 渡邊 知秀 | 本部長  |
| (一財)全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会      | 久松 三二 | 委員長  |
| (公財)東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営本部 | 小室 明子 | 本部長  |

○事務局

東京都

4 要旨

○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

- ・ただいまから、第2回東京2025デフリンピックに係る大会準備実務者会議を開会する。
- ・議題について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 清水部長

- ・議題1 セキュリティ体制について、資料に沿って説明。
- ・議題2 医療体制等について、資料に沿って説明。
- ・議題3 多様な人々の参画について、資料に沿って説明。
- ・議題4 デフリンピックスクエアの設置について、資料に沿って説明。
- ・議題5 DEAF SPORTS HOUSEについて、資料に沿って説明。
- ・議題6 ユニバーサルコミュニケーション(UC)について、資料に沿って説明。

○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

- ・議題の内容について、質問や意見等があれば伺いたい。

○東京都 渡邊本部長

- ・説明を聞いて、様々な取組を進めていることが確認できた。
- ・以下ご教示いただきたい。

- ① ボランティアは3,500人に当選を出しているが、様々な事情で辞退や大会当日の欠席も想定される。大会運営には支障がないよう準備されているか。また、運営側において、きこえるボランティアときこえないボランティアが互いにスムーズに仕事ができるような配慮や準備はされているか。
- ② 大会中多くのメディアからの取材が想定されるが、手話通訳の配置など、運営体制はどのように準備されているか。また、SNSによる批判的なコメントや選手への誹謗中傷などの投稿への対応は検討しているか。

#### ○デフリンピック準備運営本部

- ① ボランティア数については、当日、一定の欠席が、毎日生じても対応できる数を含めて、当選者を出しているため、大会運営に支障はないことを説明。あわせてボランティアに対して、活動の参考になる知識や情報、簡単な手話表現、ユニバーサルチャットボードや筆談用の余白スペースを掲載したハンドブックを配付し活用いただくことや会場に配備されるUC機器も活用いただく予定であることを説明。
- ② 各会場内のインタビューエリアにおいて、日本手話言語通訳者の配置またはオンラインによる日本手話言語通訳が可能な体制を整えるよう準備していることを説明。SNS対応については、随時把握する体制を整え、正確な情報を適宜適切な方法で主体的に発信していくとともに関係機関と連携し対応していく旨説明。

#### ○東京都 渡邊本部長

- ・ボランティアのために様々な準備がなされている旨、承知した。
- ・取材対応については、より多くの記者に情報を発信していただきたいため、手話通訳の配置など、メディアのニーズに応えられるように是非願います。
- ・SNSは非常に難しい側面もあるため、正しい情報の発信をお願いします。
- ・一方、アスリートが大会を楽しんでいる姿をSNSに発信することで、デフリンピックの素晴らしさがより広がるのは良いこと。
- ・全日本ろうあ連盟から各国選手団に様々なところで発信いただけるよう呼び掛けをお願いしたい。

#### ○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

- ・以下ご教示いただきたい。
- ① 救護所や医療機関における遠隔手話通訳サービス及び遠隔手話通訳で対応が困難な場合の準備について
  - ② ボランティアの構成（きこえる人・きこえない人・日本の手話ができる人・国際手話ができる人・外国語ができる人等の人数）について
  - ③ デフリンピックスクエアのPR方法について

④ 選手のバス乗降場所（デフリンピックスクエア、代々木公園）について

⑤ 災害等非常時の対応について

#### ○デフリンピック準備運営本部

- ① 救護所や医療機関においては、速やかに判断が必要なため、基本的にはコミュニケーションボードや指差ボード、筆談等の使用を想定していること、選手が救護所や医療機関に向かう時は、自国の選手団から発話での会話が可能な付き添い人を指定して同行することを求めている旨を説明。
- ② ボランティアの応募時には、障害の有無は確認していないこと、手話でコミュニケーションが可能と回答した方は1,641人、そのうち国際手話でコミュニケーションが可能と回答した方は447人、英語で円滑なコミュニケーションが可能と回答した方は641人いたことについて説明。
- ③ 今後実施予定のプレスセミナー及びデフリンピックスクエアのメディアツアーにおいて、メディアに対してデフリンピックスクエアを紹介することで広く発信をしていただくことに加え、ホームページ掲載やリーフレットを競技会場等で配布するなど、一般の来場者に向けても積極的にPRを行う予定である旨を説明。
- ④ いずれもバス乗降所として使用する旨、行先によりバス乗降場が異なる旨説明。
- ⑤ 各会場と、大会運営本部とで連携を取りながら事案により4段階に分け、関係各所と協議のうえ対応方針を決定する旨を説明。

#### ○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

- ・承知した。しっかり準備できていることが確認できた。
- ・ボランティアについては、手話ができる人が多いことを知り嬉しい。
- ・災害時、きこえない・きこえにくい人に対しての情報の伝え方、安心して避難できる方法を考えていただきたい。

#### ○東京都 渡邊本部長

- ・いよいよ今日であと大会の開会まで10日となった。この間、様々な形で、準備をしていただき、また、実務を担っている東京都スポーツ文化事業団の皆さんに感謝申し上げます。
- ・大会に向けて、競技運営の準備が進んでいること、きこえる人・きこえない人が一緒に大会運営をするための準備ができていること、選手が競技をするだけではなく日本文化に触れて、その楽しい思い出を自分の国に持って帰ってもらうような取組もあり、子供たちや一般の方々もみんなが会場に来て応援するための準備も進んでいるということで、非常に内容が充実したものになっていると思う。
- ・過去の大会にないようなデフリンピック100周年の記念大会にふさわしい大会になるのではないかと、東京都としても信じているところ。

- ・一方、大会時には、どんなに万全の準備をしても様々なご意見等が寄せられることが予想されるが、これまで最善の準備と努力を重ねてきたことを全日本ろうあ連盟、東京都、東京都スポーツ文化事業団の三者が連携して対応・説明していくことが重要である。

○全日本ろうあ連盟 河原副理事長

- ・本日の議題は以上。この内容で進めることで合意とさせていただく。
- ・大会も目前に迫ってきているが、しっかり準備できていることを4者で確認することができた。
- ・引き続き皆さんの協力をお願い申し上げます。